

シリーズ

沼津兵学校とその人材 ⑬

戊辰戦争と沼津兵学校の群像

沼津兵学校の教授や生徒の中には、沼津に来る以前に明治新政府軍と干戈を交えた者もいた。また、兵学校で教え、学んでいるまさにその時期、肉親が箱館の五稜郭で戦っているという者もいた。彼らの胸の内には実に複雑なものがあったに違いない。旧幕臣としての意地を貫き薩長と最後まで戦うか、それとも小さな意地は捨てて日本の新時代のために生きるべきか、この葛藤は小説や映画の格好な題材になったが、それはまた事実でもあったろう。沼津兵学校には、人々の様々な思いが渦巻いていたものと思われる。

市川・船橋で官軍と抗戦した江原素



ひん ちゅう び
敗 忠 碑
(沼津市 本光寺)

沼津在住の旧幕臣が、戊辰戦争に散った同朋の霊を慰さめるために建てたもの。「明治三年四月沼陽有志士族相謀建碑於本光寺鎮幕府戊辰殉難之士之靈歴年既久始將湮滅今□繼其志更建碑以表徵意 東駿有志 明治十七年五月十五日」と刻まれている。

六、部下を率いて上総国に脱走した間宮信行・天野貞省、榎本武揚艦隊に乗船して蝦夷地へ向かおうとした中根淑山田昌邦、大鳥圭介の脱走軍に参加し関東を転戦した佐野照房など、兵学校の教授陣には現に実戦を経験した者もいた。生徒の中にも、関東で戦った古川宣誉・望月二郎・永峰秀樹・野口保三・横地重直、新選組とともに甲州勝沼で戦った結城無二三、彰義隊の上野戦争に参加した吹田鯛六といった人々がいた。年少の生徒の中には、塚原靖や島田三郎のように薩長憎しに燃え、復讐を誓う者すらいた。

また、一等教授塚本明毅は、二人の

弟明誠・明教が箱館で戦っていた(明教は戦死)。一等教授田辺太一と二等教授浅井道博は、榎本政権の海軍奉行荒井郁之助とは義兄弟であった。二等教授乙骨太郎乙も弟兼三が箱館の榎本軍にいた。三等教授石橋好一は、兄吉沢勇四郎が榎本軍の工兵頭並になっていた(後戦死)。そして何と云っても榎本武揚自身が、沼津病院医師林海海海の婿であり、兵学校一等教授赤松則良とは妻同志が姉妹の間柄であった。

しかし、朝廷に対する無条件降伏の結果成立した静岡藩および沼津兵学校では、個人の心情はどうあれ、政府に対する叛意などは許されないことであった。勝海舟ら藩首脳、西周ら学校当局はもとより、当事者を含めてほとんどの人々は現実を見つめる冷静な目を持っていたのである。

戊辰の敗戦体験は、同じ旧幕臣とはいえ、西周や福沢諭吉のような陪臣出身者と三河以来の旗本・御家人とは全くその重みが違っていたであろう。彼らがその後の人生においてその体験をどのように継承していったのか、それも人により様々であろう。しかし、現代における八月十五日にも匹敵する意味を持っていたのではないだろうか。

ぬまづ近代史点描 ⑨

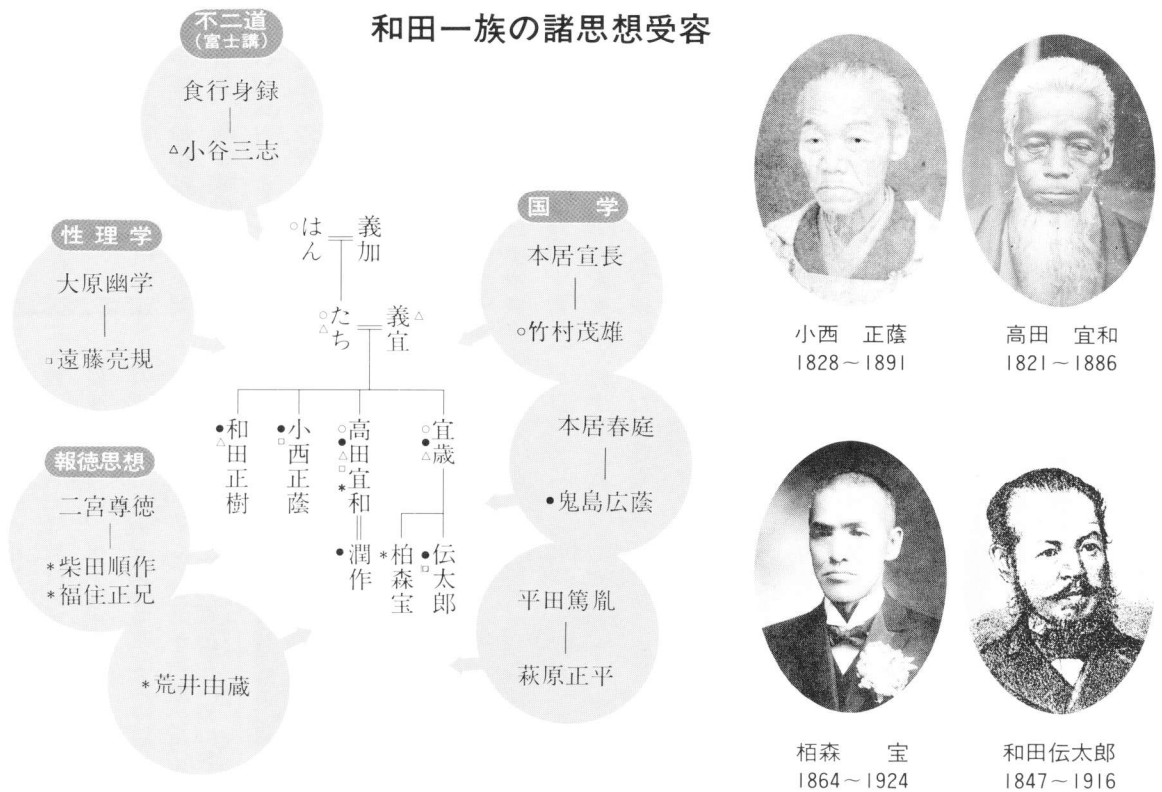
和田伝太郎と性理学

近世以来、沼津きつての豪商だった和田家は、幕末から明治期にかけ、国学・不二道・性理学・報徳思想・民権思想など、様々な学問・思想を次々に受容した一族である。それは単なる資産家の余技ではなく、封建制から近代市民社会へと変革期の社会情勢を背景にした、地域名望家としての真摯な生き方の模索であった。

明治四年(一八七二)二月、和田伝太郎(歳貢・鷹峰)は、下総国香取郡長部村(現千葉県千潟町)の遠藤亮規(良左衛門 一八一〜一八七三)に性理学を学ぶため沼津を出発し、叔父高田宜和(当時潤作・庵原郡柏尾村)とともに四月二十日入門を果たした。もう一人の叔父小西正蔭(次郎左衛門・小田原の葉種商)も翌五年正月二十八日入門している。そもそも性理学(性学)とは、天保期の荒廃した農村を復興するため、大原幽学(一七九七〜一八

五八)が創始した道徳・経済の思想である。流浪の浪人だった幽学は、天保六年(一八三五)長部村の遠藤家に招かれ、以後幕府による追及の結果安政五年(一八五八)に自殺するまで、産業組合組織による耕地整理・農業技術改良・農作業の計画化・消費物資の共同購入などの方法で、村の立て直しをはかった。それら経済的事業を推進するための基礎に置かれたのが利己心を制し、勤勉で禁欲的な生活を保つという道徳であった。性理学は、道徳と経済とを統一した実践哲学であった。遠藤亮規は、師幽学の没後その跡を継ぎ、二代目教主となった人であり、維新後は積極的にその教えを各地に普及した。不二道と国学・二宮尊徳との関わり、大原幽学と下総の平田国学門人との関わりなど、和田家が受容した諸思想は決してバラバラなものではなく、それぞれに相関関

和田一族の諸思想受容

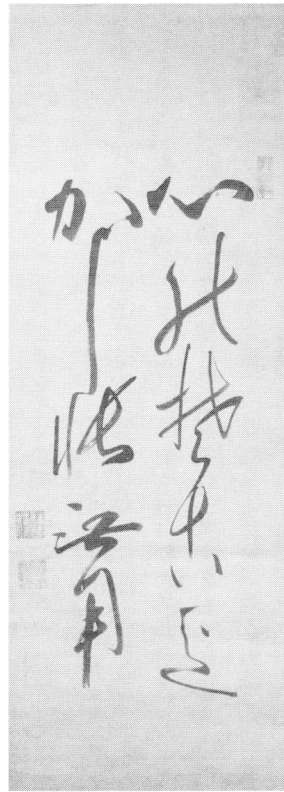


係があった。従って、伝太郎が性理学に入門したことは、幕末期に父祖や彼自身が国学や不二道の教えに求めたものを、さらに継承・発展させる行為だったのだろう。

伝太郎は明治四年十一月家督を

継いでいるので、遠藤のもとで修業したのは数ヶ月だったようだ。

明治六年（一八七三）、性理学に對する政府の弾圧事件が起き、小田原の叔父小西正蔭も国事犯として投獄された。これは、旧幕臣数



心こそ運
かし帳無印

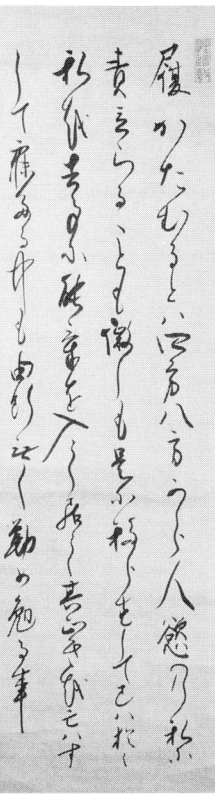
遠藤亮規墨蹟3幅

(栢森降氏所藏)

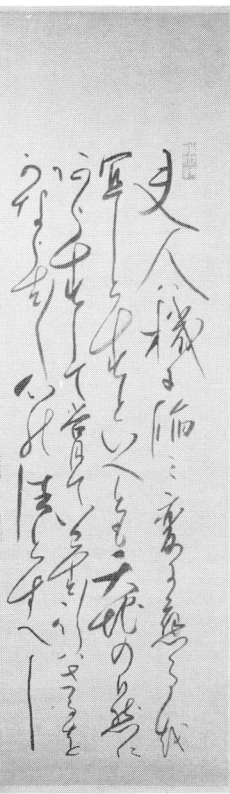
和田伝太郎・高田宜和が師に書き与えられたもの。

名が遠藤に入門したことに對し、徳川幕府再興・政府転覆を目指す陰謀であると誤解した司法省の役人により惹起されたものであった。和田と高田は無関係だったようだ。その後和田は、区戸長・教導職

などとして地域行政や民衆教化にリーダーシップを発揮する。明治十年代には自由民権運動にも参加し、県議員や実業家として沼津を代表する名士となった。その活躍に性理学の教えがどのように生かされていたのかはわからない。



履かたむるとハ四方八方から人欲乃私に責立らるゝとも微しも是に移らすして己ハ猶々私を去事に能きを入之居之其正きを亡ハすして寝たる中も由断無く勤め勉る事



夫人ハ機に臨ミ変に応るを宜しとすといえとも天地の自然にあらすして曾ていわす行ハさるをかならずく心の法とすへし

一方、叔父の高田宜和は、豪農・村落指導者として、大原幽学の性理学と相通じる二宮尊徳の報徳思想をも取り込み、明治十六年（一八八三）には駿河東報徳社長に就任した。高田はそれまで彼が学んだ国学・不二道・性理学・報徳思想のすべてを統一的に実践した人であった。なお、宜和の養子潤作は、従兄弟和田伝太郎とともに国会開設建白の総代となり、県議員として活躍した。

伝太郎の弟で富士郡伝法村に養子に行った栢森宝は、兄や叔父たちの影響を受けたものか、報徳教師荒井由蔵に師事し、村長・青年団長などとして、報徳思想を取り入れ地方改良運動を推進した。

《参考文献》『岳陽名士伝』静岡県德行録、『大原幽学とその周辺』

『旭市史』第三卷

お知らせ欄

◎企画展はじまる！ 「草莽の国学と明治維新」

7月20日から、今年度の企画展「草莽の国学と明治維新」展が4階企画展示室で開幕しました。

国学とは、江戸時代中期に興った学問で、漢学や洋学に對立し、古事記・日本書紀・万葉集などの日本の古典の研究を通して、仏教・儒教渡来以前の日本固有の伝統的な文化や精神を明らかにしようとする運動でした。荷田春満、賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤らによって国学は発展しましたが、「草莽」と呼ばれる名もなき農民や町人の間にも広がり、日本全国にその教えを学ぶものが輩出しました。国学はその国粹主義的な性格からやがて、尊王攘夷・倒幕運動を促進し、明治維新を達成する思想的原動力ともなりました。

今回の展示では、沼津地域の国学関係者の遺墨、肖像画、短冊等の豊富な資料を通して、庶民の学問としての国学の姿を展示紹介しています。



開催は9月29日まで、是非一度ご来館下さい。

◎古文書解読入門講座の受講生を募集します。

古文書に初めてふれる初心者を対象に、郷土で書かれた古文書をテキストに使いながら、くずし字などの解読力を養い、自分の力で郷土の歴史をひもとく楽しさを覚えていただく講座です。

昨年度に引き続き、夜間の時間帯の開講としましたので、受講希望者は、当館まで電話にてお申込み下さい。

と き…10月7、14、21、28日、

11月4、11日の毎金曜日

18時30分～20時30分まで

ところ…明治史料館 講座室

講師…友野博氏

(沼津市立高校教頭)

受講料…無料

(辞書をお持ちでない方はあつせんします。)

◎小学校の利用、増える。

5、6月には、小学校の団体利用が増えました。利用の多いのは、3年生から5年生で、社会科学見学や自然教室などの校外活動の機会をとらえ、来館しています。

小学生の団体利用では、講座室において、講話形式で分かりやすい話を聞いたり、映画を見たあと、展示室を見学しています。

大平小学校5年生のクラス単位の利用例では、ウォークラリーのポイントの一つとして明治史料館を見学し、展示説明の話の中から、ゴール地点で先生が質問をする、といったユニークな利用法がとられています。

学校利用の最大の障害はバスなどの運行手段の確保にあります。

小中学校の社会科担当の先生方には、校外学習の場の一つとして、身近な博物館の積極的な利用を図っていただき、小中学校の9年間を通して、児童生徒がせめて一度は史料館を訪れるようなカリキュラム化を目指して、いろいろな機会に利用の可能性を追求していただければ、と願っています。



講座室でのお話し (浮島小学校4年生)

沼津市明治史料館通信 第14号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410 沼津市西熊堂372-1

☎〇五五九(23)三三三三五